

町道舗装急ピッチ

打ち積極的道路行政

町の直営工事による町道の舗装が今、急ピッチで進められており、部落間の主要町道約一万五千メートルの計画で、積極的に行なわれています。

本年度の重点事業としてとり上げられた町道の舗装計画は、部落間の主要路線が中心となっており、町営住宅前など約二千五百メートルが舗装になりました。また計画されている路線も順次工事をすすめて急ピッチで舗装化がなされています。本年度の町道舗装計画は一万五千メートルとなっており、町道は現在、一万二千メートルが

町道の総延長は約五十九万八千メートルですが、このうち部落間の連絡となる主要町道は約五万メートルです。本年度中にはこの半分が終わることになります。これまで幹線の改良舗装工事は国や県から補助を受け事業をすすめていたが、昨年度から国や県の補助の対象とならない町道を町の建設課の直営ですすめてきました。建設課では、舗装にあたって現在活躍しているグレーダー、ローラー、大小ダンプなどの機動力のほかに、これは砂利積込作業を軽減するためにショベルを購入することになっており、町独自の機械力を利用して、維持補修工事や簡易舗装をすすめています。

農委会長に鈴木呉氏

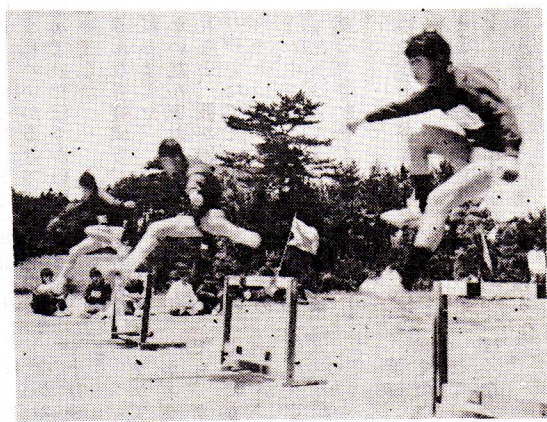
副(飯島健氏)は変わらず



鈴木 呉氏

五月二十二日に開かれた農業委員会の総会で鈴木呉さんが新しく農業委員会会長に選ばれました。農業委員会会長だった故笹目義男氏が事故死したため、五月の定例農業委員会会長の席上、その後任会長選出の件が議題となり、上程された委員で互選を行ないましたが、それ

の結果、鈴木呉さんとなったものです。また、新しく会長となった鈴木さんは、今まで農政部長をつとめていたため、この会長昇格にとりなされて、新農政部長に笹目正義さん、副部長に田宮照光さんを選出しました。なお、副会長、農地部の役員は従来どおりです。



雲夏は空

六月も上旬をすぎると、いよいよ夏の気配が強くなってきました。目に青葉山ほととぎす……の季節がだんだんと深まっています。初夏の一日、玉造中学校では、校内の陸上競技大会が開催され、校庭いっぱい、さまざまな競技がくりひろげられました。この大会は郡の予選を兼ねて行なわれたもので、一年生から三年生まで、全校生徒がエンヂ色のトレシャツに身をつつんで躍動しました。

教訓を固く心に決して、私たちの国が、ふたたび戦争にまきこまれる悲劇をさるにくりかえすことのないよう平和を守る決意と行動を強めてゆくことを誓います」と式辞を述べました。その後、遺族のみなさんが献花を行ないました。また、届出をする場合は、つぎのことに注意しましょう。

・出生届
・死亡届
・出生と死亡の届出方法がかわりました

平和を守る決意新たに

しめやかに慰霊祭



英霊よ安らかに……と、玉造五地区で戦没者の慰霊祭が四月中旬に行なわれました。地区ごとに行なわれた慰霊祭は三月十九日に立花で行なわれたのち、各地区でも執行され玉造町の戦没者、殉難者、五百四十六柱の霊を慰めようとする遺族などが参加してしめやかに行なわれました。

笹目義男氏逝去

準町葬に300人が参列



故 笹目義男氏

農業委員会会長として町政に尽力してこられた笹目義男氏(五十八才)が、郡農協協議会の帰途交通事故にあい五月五日永眠されました。同日の葬儀が五月八日午後一時から谷島の自宅で行なわれ、準町葬として行なわ

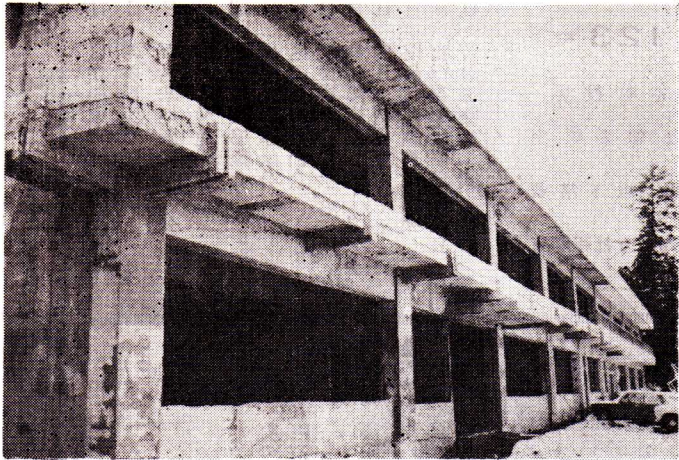
れました。葬儀には百里基地司令をはじめ行政関係者から一般住民まで各層の人々約三百人が参列し同氏との別れを惜みました。笹目氏は農業委員会会長のほか、もと町議会議員等の重職をつとめ町発展、とくに農業振興問題についてこられた功績は大きくその死が惜まれていました。私たちは、同氏の遺徳をしのびながら、ご遺族のかたがたとともに黄泉の路の安寧を心からお祈りいたします。

米の生産調整の申込受付が五月二十日で締め切れ、最終的な数字がまとまりました。産業課がとりまとめた調整の状況をみると八十ヘクタール、八〇・四％となりました。玉造町におおられた米生産調整の目標量は九十二・六ヘクタール全国的には、ほぼその目標に達したと伝えられますが、玉造町では、面積上で多少低率となっており、調整の内容をみると、下表で示したように休耕が多く全体の約半分にあたる四七・五％を占めています。同じく転作も四〇パーセント

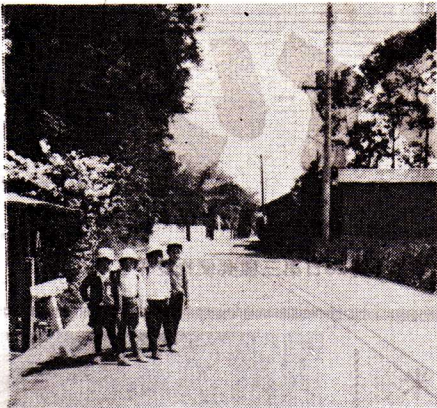
米生産調整実施計画

区分	作目名等	生産調整面積 (ha)	生産調整戸数 (戸)
転作	飼料作物	0	1
	果樹	—	—
	桑	4	16
	野菜	9	82
	その他	20	36
	小計	33	(116)
休耕		38	310
転用	林地	—	—
	養魚池	9	34
	農用施設地	0	5
	小計	9	(37)
合計		80	(457)

()内は実数



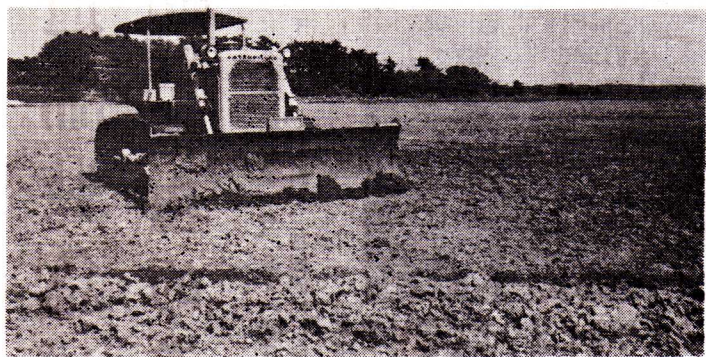
玉川小学校躯体工事



上山一ジゲタ線舗装



現原小学校通学道路



浜小学校整地工事



玉造地区農免道路



玉造小学校

44年度のまちづくり

町では明るくすみよい町づくりをすすめるため、昭和四十四年度もいろいろな事業を手がけてきましたが、これらの事業のなかから主なものを写真によりお知らせいたします。

カニとり

五年 小野瀬忠利

灯台の下、急な坂道をおりて海岸についた。ほかの学校の生徒も、たくさんいた。その人たちが、カニをとっているのを見て、ぼくも川尻君で、カニとるははじめた。大きな石を二人で「よいしょ」とかけ声をかけて、どかして見たすると、小さなカニが、二、三びきいた。

はや足で、はしり出したので、にげられてしまふから、そのころの石をどかしてつかまえた。そんなことをしているうちに、岩のあいだに、大きなカニがいるのを見つけた。ぼくが、川尻君に「大きなカニがいるぞ」とどなった。川尻君が来て「どれ」といって岩の間に手をつっこんだ。でもとれない。やけになって、ちかくにおちていたほうでつついた。そしたら、よいいおくにはいってしまった。だからぼくは、海水を、その岩の間に、とびこませるようにいれた。そしたら、にこってしまつて見えなくなった。「ようし」そういって、手をつっこんだ。

すると、カニのせなかに手がついた。もうすこしだとおもってできるだけ、おくのほうに手をのばした。するとカニが、ぼくの手にかみついた。「いてえい」といって手をとって出した。でもまだ、カニは、くっついていたのでふりまわした。すると海のなみに、のみこまれるようにおちていった。「ちえっ、そんなな」とおもって、うしろを見たら、川尻君がいなかった。まわりをみわたして見ると、百

メートルくらいはなれたところに大きいほらあながあった。いきなりあなとおもって、五、六ほあるきはじめた。そしたら、集合時間のふえがなつた。カニを持っていそいで帰っていった。そして、みんながならんでいるところへいった。

カバンの当番

五年 理崎とも子

わたしは五年生は五月十三日鯉子遠足に行きました。お昼になってお店で、おべんと



私たちの作品

手賀小学校

せいに会に出そうね」と相談しました。そしたら男子二人が、カニを入れるふくろを取りに来たので「男子、カバンの当番やらないとだめでしょ」といって、しらんぷりして行つてしまいました。次の人とのこうしたいの時間が来たので洋子さんをよびに行きました。

ヤッホー 行けー

五年 滝原 清則

鯉子遠足の昼休み、とう台の下をとり、かいだんをおりる。ザザザザザー ジャーバン。波だー。『ヤッホー』『海だゆけー』心でさげんだ。『さあ、カニとりだ、カニとりだ』近くで、きょうとう先生もむちゅうでカニとりだ。先生は、ぼくたちとちがつて、おもしろねらっている。石をほって、『それ、いまだ』サッと手をのばし、そら、一びきつかまった。

大志 六年 高塚 栄子

うを食べてから、とう台の所へ行ったら他の学校の生徒がたくさん来ていました。ならんでいたら先生が、「ここに分くらいかかるので、下の海岸で遊んでいたほうがいだろう」と言いました。みんなも賛成で、海岸で遊ぶことにしました。かいだんをおりていく途中、海を見たら、波が岩にぶつかつてうなり声をたてています。下へついたら先生が「カバンの当番をきめて遊びなさい」と言ったので、わたしたちのグループはならんで来た順に当番をやることにしました。

わたしが一番はじめなので、していました。そしたら男子の当番が来ています。いっしょに当番をしていたじゅん子ちゃん「あしたのはん



△45年4月△

◆おめでた			出生と死亡		
赤ちゃん	父	続柄	出生	死亡	
箱根 公子	守	長女	箱根 公子	箱根 公子	
関口 博章	繁	長女	関口 博章	関口 博章	
椎名 博章	繁	長女	椎名 博章	椎名 博章	
野原 和美	忠	二男	野原 和美	野原 和美	
橋本 明生	忠	二男	橋本 明生	橋本 明生	
郡司 久美子	忠	三女	郡司 久美子	郡司 久美子	
小沼 征子	武	長女	小沼 征子	小沼 征子	
小松崎 克喜	靖	二男	小松崎 克喜	小松崎 克喜	
羽成 忠広	忠	長男	羽成 忠広	羽成 忠広	
坂本 利生	吉	長男	坂本 利生	坂本 利生	
和田 陽一	通	長男	和田 陽一	和田 陽一	
関谷 和恵	昭	長女	関谷 和恵	関谷 和恵	
大崎 香代子	博	長女	大崎 香代子	大崎 香代子	
◆おくりやみ			氏名		
田中 なつ	七	七	田中 なつ	田中 なつ	
森作 すみ	八	一	森作 すみ	森作 すみ	
栗又 三郎	六	五	栗又 三郎	栗又 三郎	
滝崎 重左衛門	八	七	滝崎 重左衛門	滝崎 重左衛門	
佐藤 健	七	〇	佐藤 健	佐藤 健	
磯山 玉雄	四	一	磯山 玉雄	磯山 玉雄	
山崎 雅雄	七	〇	山崎 雅雄	山崎 雅雄	
栗山 むめ	七	八	栗山 むめ	栗山 むめ	
酒井 基安	六	五	酒井 基安	酒井 基安	
あとながき			五月末日、取材のためにパイ		
			クで玉川のある部落を通りか		
			ると、町内会や親せきらしい人		
			ちが総出で、家のとりこわしを		
			しているのに出合いました。とな		
			りの人が亡くなったのも気がつか		
			ないという他人とおしの寄せ集め		
			である大都市では見られない美		
			景だなど思いました。		



自分の家を建てるのにも、となりの組の忙しさを思いやり、麦刈り前の比較的、楽な日を選んでおきはないかと思いましたが、世の中は、少しづつ変わってきましたが、暖かい人と人との心のつながりを、いつまでも残しておいてほしいものです。